

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

平成28年10月
川越町教育委員会

本年4月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。

1. 学力・学習状況調査結果



全国学力・学習状況調査について

A問題とは、主として「知識」に関する問題です。(身につけておくべき基礎的な知識や技術)

B問題とは、主として「活用」に関する問題です。(知識や技能を実生活の場に活用する能力)

(1) 川越町小学校

□全体の傾向・・・全体的に二極化傾向の改善が顕著に見られ、全国及び県の正答数分布曲線に沿った結果となっている。

国語 A：ごく一部正答率のやや低い児童も見られるが、正答率の高い児童が多い。

国語 B：正答率の低い児童がごく一部見られる。

算数 A：正答率のやや高い児童が多い。

算数 B：正答率のやや低い児童が少なく、平均正答率付近の児童が多い。

□強みと弱み

	A問題	B問題
国語	<ul style="list-style-type: none">○目的に応じて、図や表とを関連づけて読むことができている。▲ローマ字の読み書きは、定着してきている子と定着していない子との二極化が大きい。▲漢字の読み書きの出来栄に、ばらつきがある。	<ul style="list-style-type: none">○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを的確にしながら読むことはできている。▲グラフや資料をもとに、目的や意図に応じて自分の考えを書くことができている。▲目的に応じて、本や文章を比べて読むことができている。
算数	<ul style="list-style-type: none">○全体的に無答率が低く、どの子もよく取り組んでいる。○図形に関する問題については、理解できている子が多い。○数の大小関係については理解できて	<ul style="list-style-type: none">○式の意味を考えたり、式に数値を当てはめて解答したりすることができるようになっている。▲式の中の数値の意味や、グラフの読み取り等、記述式で答える問題は無答率

<p>おり、無答率が極めて低い。</p> <p>▲小数の計算に課題がある。</p> <p>▲数の割合の理解について達成できていない。</p>	<p>が高い。</p> <p>▲図形の性質と関連付けて、説明することが達成できていない。</p>
--	--

(2) 川越町中学校

□全体の傾向・・・A問題において二極化傾向がやや見られるものの、全国及び県の正答数分布曲線に近い結果となっている。

国語A：正答率がやや低い生徒も一部見られるが、正答率のやや高い生徒が多い。

国語B：正答率のやや低い生徒が一部見られる。

数学A：正答率がやや高い生徒と、やや低い生徒との二極化の傾向が見られる。

数学B：正答率のやや低い生徒が多い。

□強みと弱み

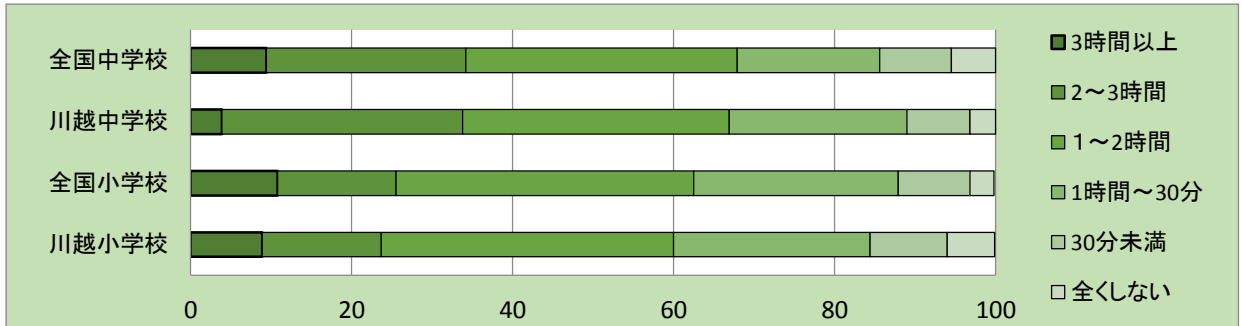
	A問題	B問題
国語	<p>○全体的に無答率が極めて低い。</p> <p>○正しい文の使い方や言葉遣いなどに気をつけて、書いたり話したりすることができている。</p> <p>▲目的に応じて資料を効果的に活用して話す力に課題がある。</p> <p>▲文章の構成や話の展開に着目して、自分の考えを持ったり比較したりすることに課題がある。</p> <p>▲書物の末尾にある奥付について、うまく理解ができていない。</p>	<p>○全体的に無答率が極めて低い。</p> <p>○物語文の展開を理解することができている。</p> <p>○図鑑の説明から必要な情報を読み取ったり、自分の考えを書いたりすることができている。</p> <p>▲文章の要旨を捉えることに課題がある。</p> <p>▲文章の構成や表現について、根拠を明確にして自分の考えを書くことができていない。</p>
数学	<p>○全体的に無答率が極めて低い。</p> <p>○数と式の基本的な問題はできている。</p> <p>○図形に関する問題については理解できている子が多い。</p> <p>▲一次関数に関する問題については課題がある。</p> <p>▲比例・反比例で数量関係を問う活用問題に課題がある。</p>	<p>○全体的に無答率が低い。</p> <p>○図形については、筋道を立てて証明する問題によく取り組んでいる。</p> <p>▲与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量関係を捉えて答えることに課題がある。</p> <p>▲与えられた表や式を用いて、解答を導き出す方法を数学的に説明する問題は達成できていない。</p>

(3) 児童生徒質問紙による生活調査結果

①学習時間帯

***小学生は1～2時間の割合が高い。中学生は1～2時間・2～3時間がほぼ同数の割合で高い。**

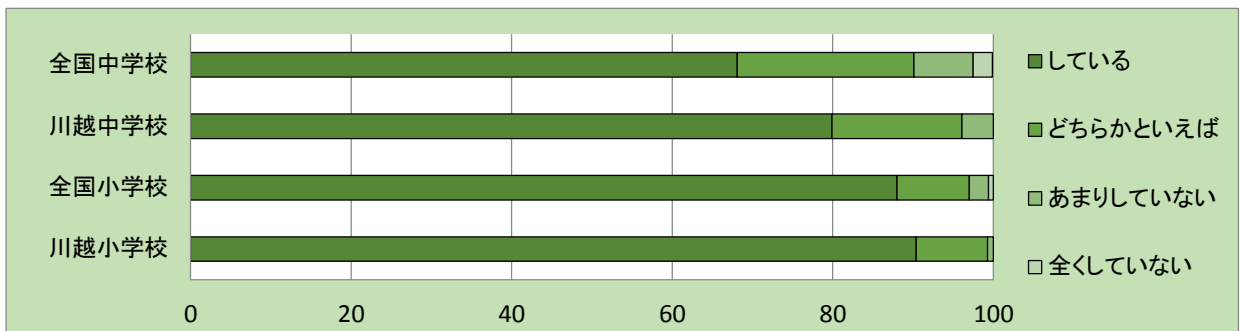
Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師含む）



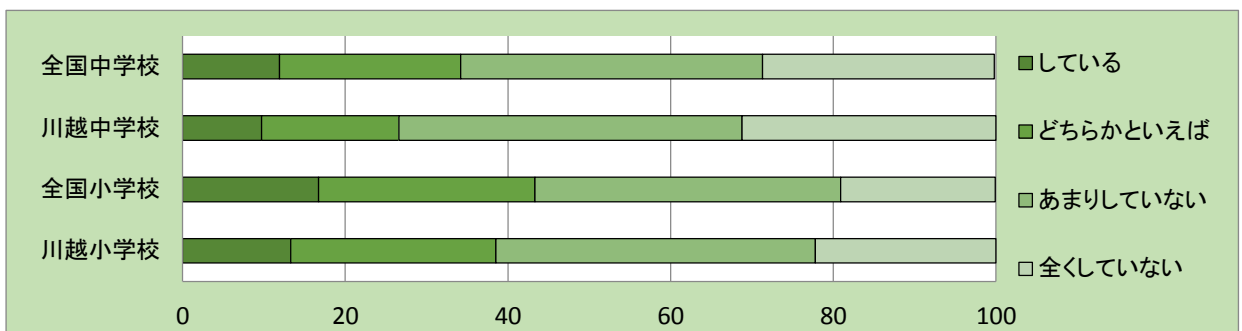
②予習・復習

***宿題についてはほとんどの子どもたちが取り組んでいる。小学生は予習・復習といった自主勉強については十分でない。中学生においては予習よりも復習に時間をかける子の割合が高い。**

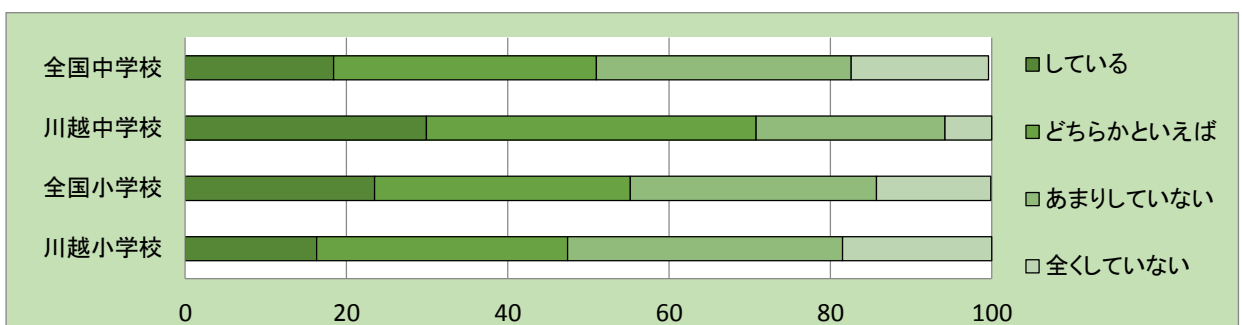
Q：家で宿題をしていますか。



Q：家で学校の授業の予習をしていますか。



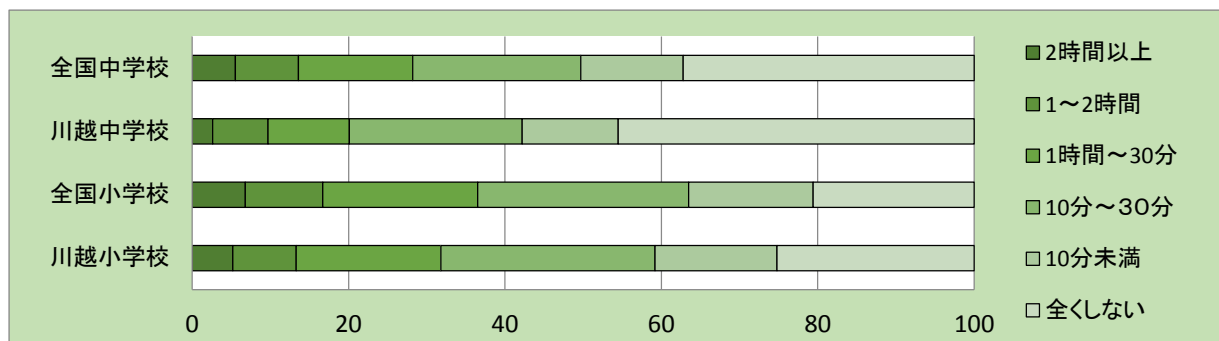
Q：家で学校の授業の復習をしていますか。



③読書習慣

***半数以上の子どもたちがほぼ毎日読書をしているが、その一方で、全く読書をしない子どもたちの割合も高い。**

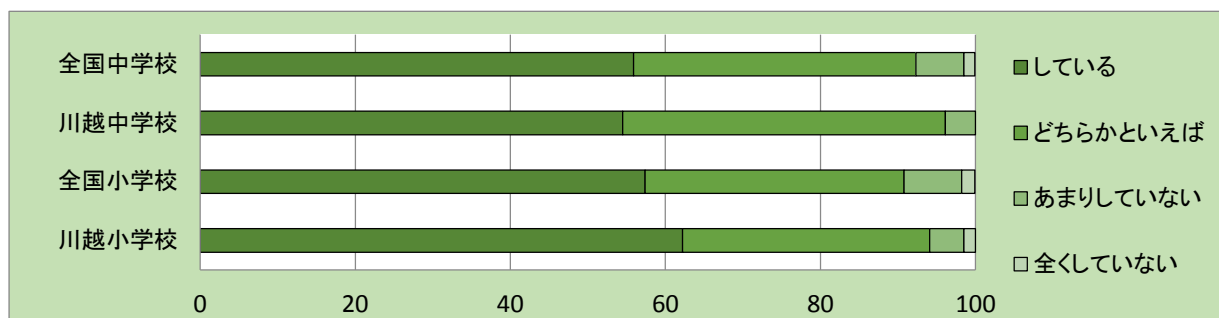
Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）どのくらい読書をしますか。



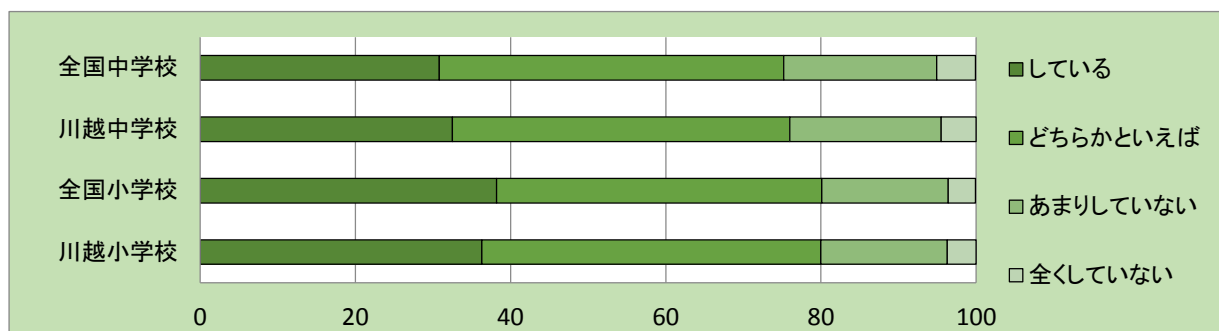
④基本的な生活習慣

***小学生・中学生とも、ほぼ規則正しい起床・就寝時間が守られている。**

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



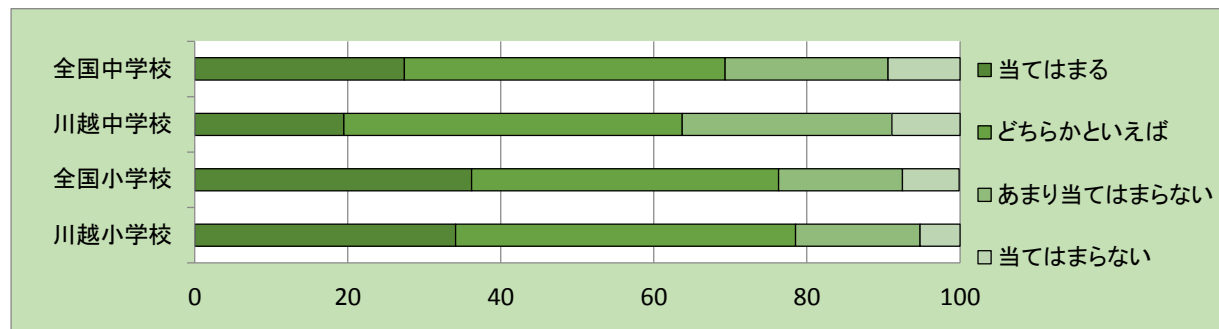
Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



⑤自尊感情

***全国と比較して、中学生において自尊感情の高い子どもの割合が低い。**

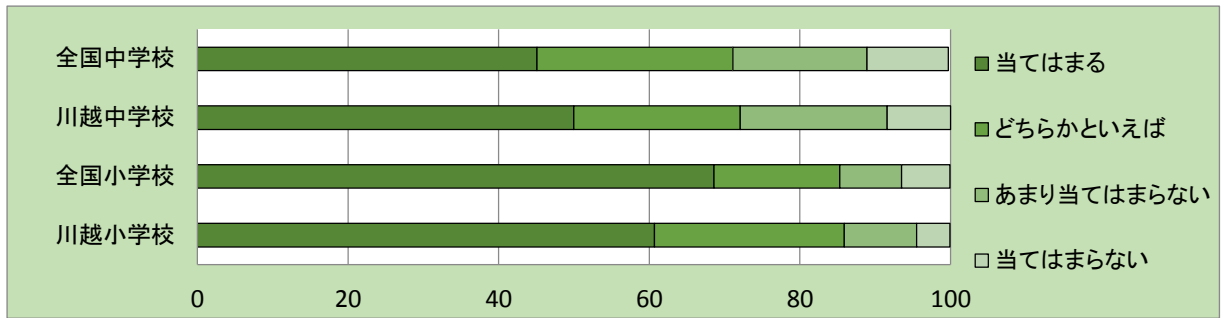
Q：自分には、よいところがあると思いますか。



⑥キャリアの形成

***小学生・中学生とも、概ね将来の夢や目標を持っている。**

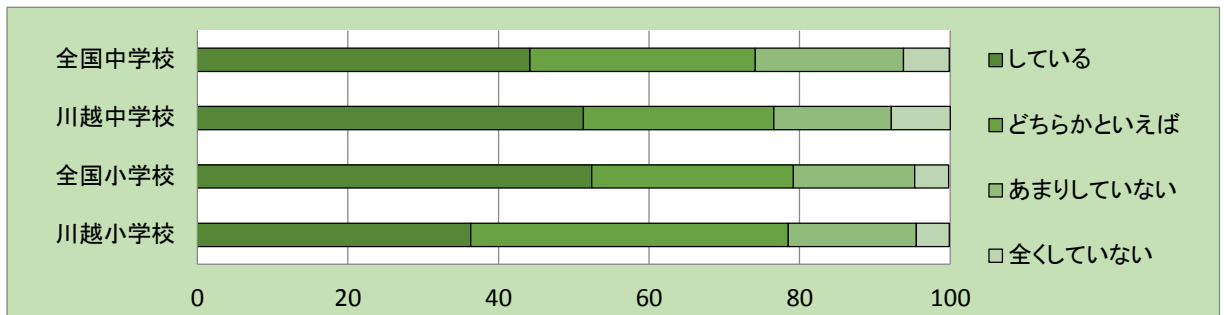
Q：将来の夢や目標を持っていますか。



⑦家庭でのコミュニケーション

***全国と比較すると、小学生において家の人と学校の出来事について話す機会がやや少ない。**

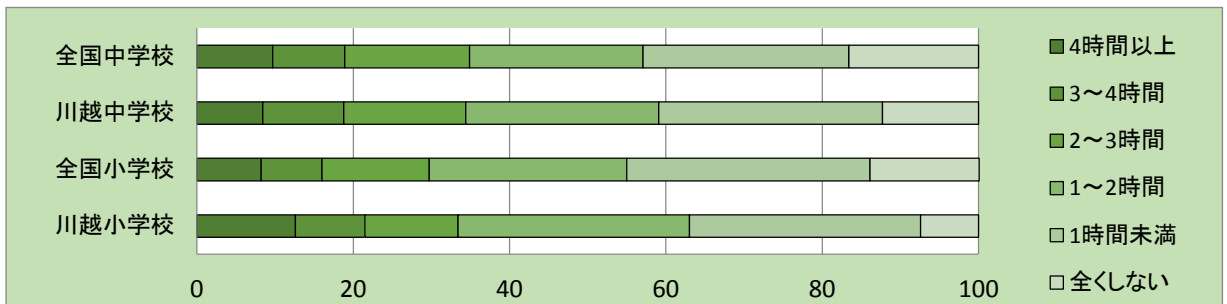
Q：家の人と学校での出来事について話をしていますか。



⑧ゲームの時間

***全国と比較すると、小学生・中学生ともに、ゲーム等に費やす時間の割合が高い。**

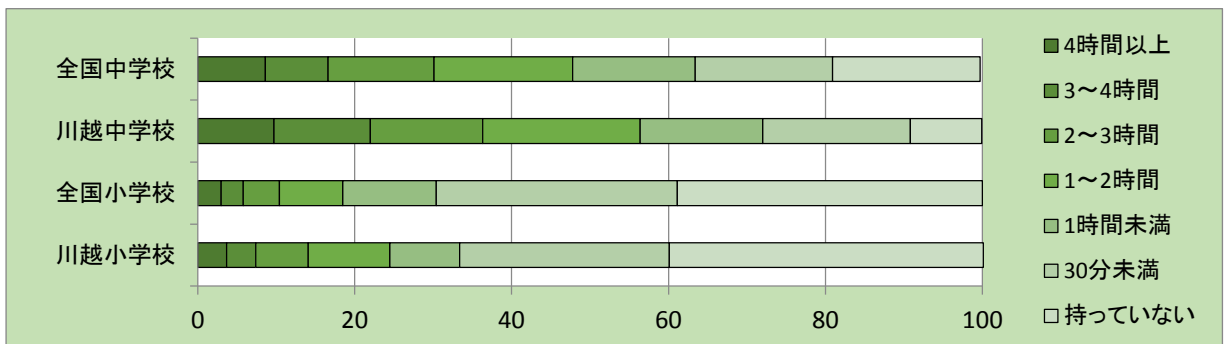
Q：普段（月～金曜日）1日にどれくらいゲーム（PC、スマートフォン等のゲームを含む）をしますか。



⑨メール・インターネットの時間

***全国と比較すると、中学生においてメールやインターネットに費やす時間の割合が高い。**

Q：普段（月～金曜日）1日にどれくらいメールやインターネットをしますか。



(4) 学校質問紙による調査結果

- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたか」という問いに対し、小中学校とも「よく行った」と回答しています。関連する問いの結果からも、小中学校では「子どもたちが見通しを持って学習し、確かな学力をつける」ことを目指して、「書く習慣をつける授業ならびに読む習慣をつける授業」を積極的にを行い、学んだことをまとめる（ふりかえる）ことを重視する授業を展開しています。

また、基礎・基本の力をつけていくために、小学校では「国語（算数・数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたか」という問いに、中学校では「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行ったか」という問いに「よく行った」と回答しています。こういった取組から、小学校では全員が回答している設問が増え、中学校では無答率がほぼ全国や三重県よりも下回っています。毎日の授業や家庭学習を大切にすることが、粘り強く取り組む子どもたちの姿につながっています。

- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたか」という問いに対し、小中学校とも「取り組んでいる」と回答しています。小中学校の教育活動において、様々な場面で挑戦する場を設定して取り組んでいますが、子どもたちの自尊感情の高まりにまだまだつながっていない状況です。しかしながら、昨年度と比較すると小中学生とも改善の傾向が見られるため、今後も意欲を持って挑戦しようとする機会を意識的に設定し、一人一人によい点や可能性を見つけ、積極的に評価および承認を行っていくことで、自尊感情の高まりへつなげていく必要があります。
- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めたか」「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」という問いに対し、小中学校とも「取り組んでいる」と回答しています。互いの考え方を交流したり自らの考えを深めたりするための時間確保はされていますが、理解力および活用力向上へつながる手立てとなるよう、友だちと共に考え、自らの考えをまとめて表現する活動を積み重ねていくための授業展開の工夫が求められています。



2. 教科に関する調査結果から見えてくることと対策

(1) 小学校

国語

- 与えられた文字数や条件に合わせて、よりよくまとめたり書いたりする力に課題がある。
- 初めて向き合う文章に対して、根気よく読んだり考えたりすることが苦手である。
- 複数の資料から必要な情報を選択し、関連付けて思考することに慣れていない。

算数

- 基本的な計算力や図形に関する基礎知識はあるが、問題を解くために必要な数値や条件を見つけ、これまでに学習した内容と関連付けながら思考することに課題がある。
- 解き方について説明する問いに対し、必要な言葉や数式を用いながら表現することに慣れていない。

(2) 中学校

国語

- 文章の構成や展開を理解し、資料から必要な情報を取り出しながら、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

数学

- 身の回りの事柄を数学的に表したり（文字式やグラフ）、数学的な表現で説明したりすることに課題がある。
- 学習したことを活用して、問題を解決していこうとする力に課題がある。

(3) 課題を解決するための手立てや指導改善について

全体を通して

全教科において、つけたい力を明確にし、児童生徒自身が「何を学んだか」「どんなことができるようになったか」をさらに実感できるようにします。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが「できた」と実感が持てる家庭学習へつなげる。
2. 自分の考えを整理して書く力をつけるためのノート指導を行う。
3. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実
 - ・テーマを設定し、制限字数の中で条件に合った答えを書く練習をする。
2. 語彙を豊かにする指導の工夫
 - ・漢字や語句を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を数多く取り入れる。
 - ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりするなど、読書活動や図書館での活動を工夫する。
3. 自分の考えをまとめる活動の充実
 - ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対する振り返りの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。
 - ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
4. 音読の習慣
 - ・声に出してしっかり読むことを習慣づけて、正確に読み取る力の基盤作りを徹底する。

算数・数学

1. できる活動の充実
 - ・基礎となる内容をていねいに指導し、定着を図るための活動を取り入れる。
2. わかる活動の充実と根拠を述べる答え方を求める授業展開
 - ・「〇〇であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
 - ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
3. 子どもたちが「わかった」「できた」ことが実感できる授業展開
 - ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。

3. 町教育委員会による手立て



(1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

(2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員の配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人ひとりの子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

(3) 学力向上推進委員会の機能的な運営

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

(4) 校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教委の指導主事が各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を拡充します。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

(5) 家庭学習および読書活動の推進

三重県下で展開されている学力向上県民運動と連動しながら、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバスをもとに、「家庭学習の定着に向けた取組の必要性および具体的な家庭支援法」を各家庭へ呼び掛けていきます。

(6) 自己有用感の向上

児童生徒の自尊感情が高まるよう、「子どもたちが挑戦する場」を学校や家庭で引き続き意図的に設定するとともに、その機会を生かして、子どもたちの伸長を見つめ、承認していけるようにします。

4. 家庭・地域へのお願い



(1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にはできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、ほめる、励ますことで、子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣にするポイント】

- 毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- テレビを消して、集中して勉強する。
- 机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。
- 教科書やノート、学習用具の整理整頓に心がける。

(2) テレビ、ゲーム、スマホ等の上手なつきあい方を教える・・・ルール作り

規則正しい生活リズムの確立が、学力向上に深く関連しています。テレビやゲームを楽しむ時間や、携帯電話およびスマートフォンを使用する時間、方法などについて、家庭でのルールづくりをしていただきますようお願いします。また、SNS（ソーシャルネットワークシステム）

の望ましい活用については、大人の行動から見本を示すことができるようにしましょう。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。

リビング以外でパソコンは使わない。

など

(3) 難しいことにも挑戦する心を育てる・・・ほめて伸ばす

自分自身になかなか自信が持てず、自分で考えたり、自分で決めたりしにくい子どもが増えています。「家族で決めた約束が守れた」「頼んだ仕事できた」など、子どもが何かを継続して行ったときや、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、出来や不出来に注目するのではなく、結果だけではなく過程も含めて、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。人のことを考えず、我慢のきかない子どもにならないように、悪い事は悪いと教え、目指すべき良き行動がとれるように子どもを導いていきましょう。

みえの学力向上県民運動

学校・家庭・地域の教育力を高めよう！

みえの学力向上

検索

